

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	港区
学校名	大阪市立港晴小学校
学校長名	前木場 篤

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・港晴小学校では、第6学年 31名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科においては、大阪市平均を1ポイント上回り、全国平均まで0.7ポイントに迫った。平均無答率は、全国・大阪市平均よりもはるかに低い。算数科においても、大阪市平均を3ポイント、全国平均より1.6ポイント上回る結果となった。平均無答率も全国・大阪市平均よりも低く、最後まであきらめることなく粘り強く取り組もうとする姿勢が見られた。

児童質問紙の回答については、一部課題も見られるが、全国平均を大きく上回る項目も見られ、学力面・生活面において充実していることがうかがえる結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域においては、大阪市平均および全国平均を上回った。しかし、「読むこと」の領域においては、大阪市平均および全国平均を下回った。総合的読解力育成のためには、3つの領域をバランスよく取入れながらも、毎日の国語の授業はもちろん、読書の時間の確保や図書館利用の啓発を行うことで、読書量を増やし、読み取る力を育てていく必要がある。

[算数]

「数と計算」「データの活用」の領域については、大阪市平均および全国平均を上回った。放課後学習や基礎学力の定着に向けての取組の成果が少しずつ表れてきた結果と考えられる。しかし、「図形」「変化と関係」の領域については、大阪市平均および全国平均を下回った。ICT等を効果的に活用しながら、対話や交流を積極的に取入れて確かな学力の定着を図るために授業改善をおこなっていく。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対しての肯定的な回答の割合が、大阪市平均および全国平均を大幅に上回っている。また、「将来の夢や目標をもっていますか」の質問に対しても同様の結果であった。学校生活や友だちとの関係についての質問においても、大阪市平均および全国平均を上回っている。「朝食の喫食率」や「いじめに対する毅然とした態度」については、課題が見られる。相手の気持ちを考え、思いやりの心を育むことができるように、いじめについて考える日や日々の教育活動の中で継続して伝えていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

- ・国語科においては、「話すこと」「書くこと」「読むこと」をバランスよく取入れながら授業改善を図るとともに、朝の読書タイムや学校図書館の活用と読書活動を推進することで、本に親しみながら豊かな心の育成を図っていく。
- ・算数科においては、既習の学習を活かして自分の考えをしっかりとともち、対話や交流を中心とした授業づくりを進めるとともに、デジタル教科書やICT機器を効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。
- ・就寝時間、起床時間、朝食の喫食等、規則正しい生活リズムとしてすべてが定着できるように、家庭とも連携を深めながら生活時間の見直しを啓発していく。
- ・互いのちがいや良さを認め合える集団の育成と思いやりのある豊かな心の涵養に向けて、縦割班活動等の異学年交流や体験的な活動の時間を充実させる。